

## 新型コロナウイルス Q&A 正しく知って、正しく予防！

世界中で話題になっている新型コロナウイルスについて、現時点で分かっている情報や Q&A をまとめました。正しい情報を知り、正しく予防して感染を防ぎましょう！

### 【東京都感染症情報センター ホームページより：Q&A 一部抜粋・加筆】

Q1：新型コロナウイルス感染症とは？

A：これまでに報告されていない新型コロナウイルス（2019-nCoV）に関連する呼吸器感染症といわれています。

※コロナウイルスは、一般的にヒトがかかる風邪の原因として 4 つあり、それ以外に、重症急性呼吸器症候群コロナウイルス（SARS-CoV）、中東呼吸器症候群コロナウイルス（MERS-CoV）などがあります。（国立感染症研究所 HP より）

Q2：症状は？

A：発熱、せきなどの呼吸器症状が報告されています。

Q3：感染源、感染経路は？

A：感染源は、現在調査中です。武漢市の市場（以下、華南海鮮城）の関係者から多数の患者が報告されており、野生動物の可能性などが考えられています。感染経路は、現在調査中ですが、患者と濃厚に接触することによる飛沫感染、ウイルスに汚染された環境にふれることによる接触感染が考えられています。ヒトからヒトへの感染は認められるものの、感染の程度は明らかではありません。

Q4：潜伏期間は？

A：潜伏期間は現在のところ不明ですが、他のコロナウイルスの状況などから、最大 14 日程度と考えられています。

Q5：相談・受診の目安は？治療方法は？

A：厚生労働省などでは、以下の 2 点を相談・受診の目安として公開しています。  
・ 風邪の症状や 37.5 度以上の発熱が 4 日以上続く方（解熱剤を飲み続けなければならない方も同様です。）

・ 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある方

治療方法については、有効な抗ウイルス薬等の特異的な治療法はなく、対症療法を行います。

Q6：予防方法は？

A：一般的な衛生対策として、咳エチケット（拡散防止）や手洗いなどを行っていただくようお願いします。また、十分な栄養と休養、軽い運動を行い免疫機能と体力を維持しましょう。人込みを避けるなども有効です。発熱や咳などの症状がある人との不必要な接触は避けましょう。接触をした場合は、十分な手洗いをしましょう。野生動物や、動物の死体に触れないようにしましょう。現時点で予防接種はありません。

## 【日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会作成 Q&A より】

Q7：子どもが新型コロナウイルスに感染するとどのような症状がでますか？

A：現時点では情報が少なく、分からない点が多いです。中国からの報告では、2020年1月30日時点で確定診断のついた9,692人中、小児(生後1か月から17歳)患者は28人のみでした。しかし、2月11日には小児の感染者数は965人にもものぼっています。これまでの報告もあわせると、家庭内において感染している例が多く、発熱、乾いた咳、倦怠感を訴える一方で、鼻汁や鼻閉などの上気道症状は比較的少ない様です。一部の患者では嘔吐、腹痛や下痢などの消化器症状を認めました。血液検査でも明らかな特徴はありません。胸部エックス線検査や肺のCT検査を行うと肺炎が認められる患者もいますが、ほとんどが1-2週で回復しています。感染していても無症状である可能性も指摘されていますが、子どもは正確に症状を訴えられない事に注意しなければなりません。

Q8：子どもの新型コロナウイルス感染症は重症化しますか？

A：今のところ、成人が感染し、呼吸不全を呈し、重症化した報告はありますが、小児患者が重症化したという報告は稀です。しかし、成人同様に感染後1週間ごろより呼吸状態が急速に悪化する可能性も指摘されています。なお、別の種類の新型コロナウイルスによる感染症である重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)では小児の患者の多くは比較的軽症であったことがわかっていますが、一部重症化したという報告もあります。

Q9：子どももマスクはしておいた方がいいですか？マスクが出来ない場合はどうしたらいいですか？

A：感染している人のくしゃみや咳に含まれる飛まつを直接浴びないという観点からは、マスクをすることの利点はあるかと思いますが、小さなお子さんでは現実的ではないと思われます。子どもの患者のほとんどは、家庭内において親から感染していますので保護者の方が感染しないこと、感染した方から1-2メートル以上の距離を保つことがお子さんの感染予防につながります。また、ウイルスに汚染されたおもちゃや本などに触れた手で、口や鼻、目を触ることでも感染しますので、手洗いや消毒も大事です。

Q10 保育所、幼稚園、学校などに行くことは控えたほうが良いでしょうか

A：現時点では、国内の小児の患者は稀で、成人の感染者からの伝播によるものですので、保育所、幼稚園、学校などへの通園、通学を自主的に控える理由はありません。しかしながら、地域で小児の患者が発生した場合、またはそれが想定される場合には、一定期間、休園や休校になる可能性があります。今後の地域での流行状況に応じて、臨機応変な対応が必要となりますので、お住まいの地方自治体からの指示に従ってください。また、各家庭内で感染者がでた場合は、その子どもは濃厚接触者として登校、登園を控えることとなります。また、厚生労働省から微熱や風邪の症状がある場合は、登校、登園を控えるようにという推奨が出ています。それらを守っていただく事が大事です。

## 【その他、厚生労働省ホームページなどから集約】

Q11 家庭での衛生管理はどうすれば良いですか？

A：一般的な食中毒防止に必要な衛生管理を行うことが、厚生労働省より推奨されています。食品であれば加熱調理、手指はアルコール消毒、物の表面などは次亜塩素酸ナトリウム(キッチンハイターなど)を0.1%希釈して使用することが同様に推奨されています。但し、ハイターなどの塩素系消毒は金属や漆器などには使用しないようにしましょう。(腐食、色落ち防止のため)

Q12 市販の塩素系消毒剤を使用するときの薄め方を教えてください。

A: 例えば市販のハイターやブリーチであれば原液は5%程度ですので、0.1%濃度にする場合にはペットボトルのキャップ2杯の原液に水を500mlで薄めます。

Q13 家族に新型コロナウイルスの感染が疑われる場合に、家庭でどんなことに注意すればよいでしょうか？

A: 一般社団法人日本環境感染学会がホームページで紹介しています。下記に要点を抜粋します。

詳しくは上記学会のホームページをご参照ください。

- (1) 部屋を分けましょう
- (2) 感染が疑われる家族のお世話はできるだけ限られた方で。
- (3) 疑われる人にマスクをつけましょう
- (4) こまめに手を洗いましょう
- (5) 換気をしましょう
- (6) 手で触れる共有部分を消毒しましょう
- (7) 汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう
- (8) ゴミは密閉して捨てましょう

感染・発症が疑われる場合には、直接医療機関を受診せず、お住まいの管轄の保健所にご連絡・ご相談いただき、保健所からの指示・指導に従ってください。

Q14 インフルエンザとどう違うのですか？

	新型コロナウイルス	インフルエンザ
症状	発熱 咳嗽 呼吸困難 筋肉痛・倦怠感 痰 頭痛 血痰 下痢 など	高熱 (38°C以上)、全身倦怠感、関節痛、せき、くしゃみ、頭痛
感染経路	飛沫感染、接触感染	飛沫感染、接触感染
潜伏期間	現時点で2日~14日	1~3日
治療	対処療法	抗インフルエンザウイルス治療薬
一般的な予防方法	感染者との接触を避ける 手洗い、うがい、 衛生管理の徹底 健康管理	感染者との接触を避ける 手洗い、うがい、 衛生管理の徹底 健康管理
患者数	2020年3月13日現在 (国内事例) PCR検査実施者 12060名 検査陽性者 674名	推計 年間約1000万人が罹患

#### 【相談・連絡先】

倦怠感、せき、息苦しい等の体調不良、熱が4日以上続いているときなどは、最寄りの保健所もしくは新型コロナウイルス感染症相談窓口にご連絡下さい。

東京都新型コロナコールセンター 0570-550571  
西多摩保健所(西多摩地区) 0428-22-6141  
多摩立川保健所(昭島・立川・国立等) 042-524-5171  
多摩府中保健所(武蔵野、三鷹など) 042-362-2334